

広報こばやし みんなでてなむ 笑顔あふれる じょじょんよかところ 小林市 2025.AUG

KOBAYASHI

8
No.233

特集

—— 戦後 80 年 ——

未来に繋げ

命のバトン





—— 戦後 80 年 —— 未来に繋げ 命のバトン

7月18日、雨が降りしき中、西小林小学校で慰霊集会在執り行われた。この集会は80年前にこの地で起きた戦争の悲劇を決して忘れず、未来へ平和の尊さを繋ぐために、毎年欠かすことなく続けられている。

今年で戦後80年。

これからも平和であり続けるために、私たち一人ひとりができることは何か、80年前にあった多くの悲劇を知ることで、今の、これからの「平和」を考える ——

西小林小学校慰霊集会より

市政の動きトピックス

宮崎国スポ・障スポを盛り上げる

小林駅周辺や国道268号沿いを オリジナルフラッグが彩ります



令和9年に開催される「日本のひなた宮崎国スポ・障スポ」への機運を高めようと、小林市オリジナルフラッグを制作しました。6月19日に設置作業を行い、国道268号線沿い（市立病院前の交差点～西町交差点）や小林駅～TENAMUビルの区間などに約100枚を設置。今後、令和9年9月～10月に開催される本大会までの期間、6種類の華やかなフラッグがまちなかを彩ります。

こばやし健幸ポイント

歩いて健康も景品もゲット 8月からいよいよスタートです



市ホームページ
(二次元コード)
から参加申し込み
ができます▼



8月1日から、「こばやし健幸ポイント」のポイント付与期間（令和8年1月31日まで）がスタートします。期間中は、健康イベントや各ウオーキングイベントへの参加、健診受診などでポイントが貯まります。安全に気を付けて、無理のない範囲で楽しみながらポイントを貯めましょう。健幸ポイント事業は、期間途中でも参加できます。

●問＝企画政策課健康都市推進室 Tel 23-0456

CONTENTS

広報こばやし
No. 233

2025 AUG

8

02	市政の動きトピックス
03	特集／戦後80年 未来に繋げ 命のバトン
20	特集／新燃岳噴火
24	こばやし Topics
28	おしらせ
30	KOBASPONEWS
31	ロバートのコラム／PickUp Topics
32	元気の知恵袋／ベジ活 ／やっぱい元気がよか！／社協タイムズ
34	手話で話そう！／健幸のまちづくり拠点施設整備つうしん／お出かけ日和
35	図書館からのお知らせ／すきむらんどNEWS
36	くらしのカレンダー
38	ハッシン info／Instagram& 広報こばやし
39	心の花びら／SUKUSUKU／こすも～日記

今月の表紙

平和への祈り



西小林小学校の校庭には、過去の戦争で亡くなった同校の前身である西小林国民学校の児童たちを慰霊するために建てられた「殉難者の碑」があります。悲劇を忘れないため、石碑の中段には空襲のことが、背面には亡くなった児童たちの名前が刻まれています。

敵米機ノ銃撃ヲ受ケタルハ女子中隊ノ第五・六中隊員ナリ

昭和20年8月10日、午前9時頃、西小林駅前アメリカのグラマン機が突如飛来。機銃掃射によって西小林国民学校（現在の西小林小学校）の児童ら10名の尊い生命が奪われた。当時、小林市で何が起きていたのか、同校で長年保管されてきた学校日誌から読み解く――



西小林小学校の児童らが普段から見られるよう、同校の廊下に飾られている機銃掃射の絵
宮原 茂強氏 画

西小林国民学校日誌
昭和20年8月10日記載文

八月十日 金曜 氣象 晴天
敵米機（グラマン機）ノ銃撃ヲ受ケタルハ女子中隊ノ第五・六中隊員ナリ
引率 高橋、曾木、山口、深草。大久保、駅前、石塚方面ニ除草作業出動ノ途中、駅前、長野浅男氏宅前ニサシカリタル折、突如トシテ敵機二〇〇米位ノ低空ニ降下シ機銃掃射ヲナス警戒警報発令ト殆ト同時、敵三機東南方ヨリ飛来。内一機旋回 児童等ニ向ツテ銃撃ヲ受ク。殆ト瞬時ニシテ如何トモナセズ 瞬時ニシテ退避セシモ即死六名、内学徒隊員四名重軽症者十数名ヲ出セリ。

西立野病院ニテ假手当ヲナシ更ニ重軽症者ハ学校ヘ運ブ。即死者ハ病院ニテ引渡し、学校ニテ絶命セル者三名

名 外ハ東大出水ノ軍ノ假幕舎ヲ假病院トシ重傷者ヲ収容。軍医ノ手当ヲ受ク、一名絶命。
（以下省略）

戦禍が迫る学び舎

西小林小学校には、第2次世界大戦中の学校日誌が保管されている。同校の前身である「西小林国民学校」のものだ。

その日誌によると、1944年7月7日に初めて空襲警報が発令されたことが記載されていた。

この記述を境に、学校生活は一変。同月には「防空待避訓練」や「防空頭巾作製講習」が実施され、戦禍がこの地に迫っていることが分かる。

実際に、日誌が書かれていた終戦間際には、米軍の南九州上陸作戦に備えて南九州には多くの日本軍が集まっていた。学校の教室は軍の宿营地として利用さ

れ、1945年7月19日には約800人が宿営したため、「教室授業不能」だったと記録されている。

当時は、軍隊に成年男子が召集され、勤労者が不足していた。学校ごとに「勤労奉仕隊」が組織され、児童らが農作業や除草作業に従事しており、これは西小林国民学校も同様だった。

そして起こった

8月10日の惨劇――

戦時下の学校日誌には、特に痛ましい記録が残されている。1945年8月10日、西小林駅前で除草作業に向かっていた児童らに、米軍のグラマン戦闘機が機銃掃射を浴びせたのだ。

日誌には「退避セシモ即

死六名」と記されている。

この襲撃による犠牲者は、即死した6名に加え、負傷後に学校や仮設の病院で亡くなった4名を含め、合計10名。中には、沖繩からこの地に疎開してきた子どもも含まれていた。

日誌には、爆死や負傷者の搬送の様子が克明に描写され、亡くなった10名の児童の氏名、学年、クラス、居住地が記されている。

翌11日は休校。教職員らは空襲警報が鳴り響く中、亡くなった児童たちの葬儀に参列した。

15日に日本の降伏が伝えられた際には、「血涙下ラザル者ナシ」と記され、16日には「無念至極」と、筆舌に尽くしがたい無念さが滲み出ている。

残された記録が訴える
平和へのメッセージ

西小林国民学校の学校日誌は、静かな農村の学び舎がどのように戦禍に巻き込まれていったかを示す、痛ましい痕跡である。

子どもたちの学びと命を無残に奪っていった戦争。勤労奉仕を強いられ、空襲の恐怖に怯え、そして銃

弾に倒れた子どもたちの姿は、戦争の悲惨さを改めて私たちに突きつける。
戦後80年が経過する今も、日誌は戦禍の記憶を伝える貴重な記録として、同校の鉄製の保管庫に大切に保管されている。

それは、二度と同じ悲劇を繰り返してはならない、そして、忘れてはならないという、強いメッセージだ。



1945年8月10日のページには機銃掃射で児童5人を含む10人が死亡したことが欄外まで書き留められており、文面からも当時の緊迫した様子が見て取れる



Profile

木佐貫^{きさぬき}ヒサエさん（91 歳）。
小学 5 年生、当時 11 歳の時
に米軍の機銃掃射に遭う。

7 KOBAYASHI 2025.8

沖縄の木の上で生き延びた 小林出身の日本兵がいた――



戦場の過酷さは、想像を絶する。しかし、戦いが終わった後も、生き延びた者たちが直面する恐怖と試練は続いていた。

沖縄県伊江島で、米軍の猛攻から逃れ、戦後の混乱期を大木「ガジュマルの木」の上で過ごした日本兵、山口静雄さんと佐次田秀順さん。その体験は、戦争の悲惨さと人間が強えられる極限の生活を語る。

2人が木の上で暮らした2年間、何が起きていたのか…
語り継がれた体験を、静雄さんの次男・輝人さんに聞いた――



やまぐち しずお
山口 静雄 さん
(写真後列：右端)

1909（明治42）年11月15日生まれ、宮崎県小林市細野出身。出兵前まで農業や軍用馬の育成などを営んでいたが、1942（昭和17）年に臨時招集令状を受け沖縄に出兵。沖縄県伊江島での激しい攻防戦の中を生き延び、1948（昭和22）年に帰郷。1988（昭和63）年6月8日、78歳で亡くなった。

命を救ったガジュマルの木

第二次世界大戦末期、激しい戦闘が繰り広げられた沖縄で、終戦を知らないまま、2年間、木の上に身を潜めていた日本兵がいた。

小林市出身の山口静雄さんと沖縄県出身の佐次田秀順さん。

2人は、米軍の砲撃に追われながら壕を転々とし、なんとか生き延びていた。

逃げる中、2人が見つけたのが巨大なガジュマルの木。

静雄さんは枝と葉っぱで丁寧に周囲を囲み、下から見上げても存在が分からないようにカモフラ―

ージュ。佐次田さんもまた、少し離れた別のガジュマルに隠れ、2人の過酷な木上生活が始まった。

息を殺し、生をつないだ

ガジュマルの木の上での生活は想像を絶する緊張の連続だった。

日中は、木の下にあった米軍の駐屯場に多くの兵士が出入り。2人は身動き一つできず、咳やくしゃみさえも許されない状況で、ひたすら息を殺して過ごした。恐怖に怯え、昼間はガジュマルの木に身を隠し、夜になると食料を求めて木を降りた。彼らが頼つ

たのは、米軍のテント近くにあったごみ箱。そこには、肉の切れ端やソーセージ、パンなど、2人の命をつなぐ貴重な食料があった。梅雨の時期になると、沖縄は連日の雨。頭からずぶ濡れになり、寒さに震える毎日。

「食料を取らないでください」。このままでは飢え死にしてしまうと思った2人は、そのように書きを残した。

終戦を告げる手紙――

2度目の冬が過ぎ、春を迎えたころ、周囲が騒がしくなった。そのうち、隠し場所にあった食料が無くなっていったという。

返事があったのは、その数日後。「戦は2年前に終わりました。安心して姿を見せてください」。

米軍の異かと疑った2人も、その後も置かれ続ける手紙に決心。1947年3月、米軍上陸から2年近くが経過していた。

ガジュマルの木の上で静雄さんと佐次田さんの2人が経験した恐怖の日々、極限の生活は、こうしてようやく終わりを告げた。

――伊江島のたたかい――

伊江島の戦闘は「沖縄戦の縮図」と呼ばれ、日米双方にとっての戦略拠点である飛行場建設に始まり、住民の強制徴用や空襲、艦砲射撃を経て激化。1945年4月16日に米軍が上陸し、日本軍は陸上特攻や白兵戦で激しく抵抗しましたが、21日には守備隊が玉碎し、米軍に占領されました。

戦闘中、多くの住民が防衛隊や義勇隊として戦闘に協力させられ、また「捕虜になるな」という軍の方針から、壕の中で集団自決するといった悲劇も発生しました。

この戦闘で軍人約2,000名、村民約1,500名が犠牲となり、村内の建物のほとんどが戦闘により破壊されました。現在、伊江島では「芳魂之塔」が建立され、犠牲者を追悼し、平和学習に活用されています。

※総務省：伊江村における戦災の状況より



静雄さんが身を隠したガジュマルの木は、「ニーバンガズィマール」と呼ばれ、命を救った神木として今も伊江島に残されている。佐次田さんが身を隠した木は2023年の台風で1度倒木したが、土を入れ替え植え直し支柱を強化して再建。今も沖縄県伊江島で平和の象徴として語り継がれている。



7月25日(金曜)全国ロードショー

©2025「木の上の軍隊」製作委員会
配給：ハピネットファントム・スタジオ

出演：堤真一 山田裕貴 監督・脚本：平一紘
原作：「木の上の軍隊」(株式会社こまつ座・原案井上ひさし)
主題歌：Anly「ニスファブシ」
企画：横澤匡広
プロデューサー：横澤匡広 小西啓介 井上麻矢 大城賢吾
企画製作プロダクション：エコーズ
企画協力：こまつ座
制作プロダクション：キリシマー九四五 PROJECT9
後援：沖縄県 特別協力：伊江村
製作幹事・配給：ハピネットファントム・スタジオ
©2025「木の上の軍隊」製作委員会

木の上の軍隊

山口 静雄さんらがモデルの映画が上映中――



静雄さんの次男
山口 輝人 さん (87)
三女
平 春子 さん (74)



1. 平成9年、父・静雄さんが命を救われたガジュマルの木に登る輝人さんと春子さん 2. 昨年11月、2人は佐次田秀順さんの次男・満さんたち家族と伊江島で対面

優しい父が残してくれた、命というかけがえのない宝物。伊江島で父の苦しみに触れ、その重みを知った今、私たちは平和という宝物を未来へ託す――
静雄さんの次男・輝人さんと、静雄さんが沖縄から帰郷後に生まれた三女・春子さんに話を聞いた。

父から感じた沖縄への思い

子どもの私たちから見て、父・静雄は本当に「普通」の人でした。明るく、とんちの利いた面白いことを言うような父です。戦争から帰ってきてからは、民生委員を務め、自転車か自分の足で地域を駆け回っていました。人助けとなると、家庭のことを忘れてしまうくらい夢中になる、そんな人でした。ね。やっぱ、自分が大変な苦勞をしたからこそ、困っている人を放っておけない、そういう心構えがあったのだと思います。父は、あの2年間の体験を積極的に話すことはありませんでした。沖縄には「2度と行きたくない」。そう言っていました。きつと、寂しさや恐怖、言葉にできない大変な思いが、父の足を遠ざけていたのでしょうか。家族としては、一度でいいから、沖縄の地へ連れて行ってあげたかった。という心残りもあります。ですが、決して沖縄への想いが消えたわけではなかったのだと思います。家では沖縄の人の歌を本当によく聞いていましたから。心の中にはずっと、沖縄があったはず。です。

父が生き抜いた、伊江島

父は再び沖縄の地を踏むことなく、この世を去りました。その代わり、ではないですが、私たちが初めて伊江島を訪れたのは、平成9年。島に降り立った瞬間、父がここで経験した苦しさや孤独を思うと、胸が詰まり、涙が先に出てきて、言葉になりませんでした。「本当に大変なところで、よくぞ生き抜いてくれた」。そう思いました。実際に父が生活していた大きなガジュマルの木を目の当たりにし、登ってみると、あの木の上で、たとえ1時間でも過ごすのは並大抵のことではない、と感じました。雨風に耐え、2年近くも息を潜めて暮らすことが、どれほどのことだったのか。昨年11月、私たちは再び伊江島を訪れました。そこで、父と共に生き抜いた佐次田さんの次男・満さんたち家族と初めてお会いすることができたのです。「父たちが木の上で互いを支え合ったように、私たちも兄弟になりました」。ガジュマルの木に命を救われた父をもつ子ども同士で、そのように話をしました。

父・静雄も佐次田さんも、極限状態の中で自決を考えたことがあったそうです。でも、お互いが「死んではいけない」と説得し、止めた。2人でなければ、絶対に生き延びることはできなかった。その話を聞いていたこともあり、私たちは2人が残してくれた縁を、これからもつないでいきたいと強く思ったのです。

繰り返さぬための祈り

今回、父たちの話が映画になりました。映画を観た人たちは、平和の尊さや命の重みを少しでも感じ取ってもらえたらと願っています。未来を生きる子どもたちが、かつてこうした過酷な現実があったこと、だからこそ「戦争は絶対にしてはならない」ということを考えるきっかけになつてほしい。父が私たちに命を繋いでくれた。その命から、またたくさんの命が生まれて、今ここに在る。一つひとつの命を大事にしなければいけないんです。ガジュマルの木が守ってくれた父の命の証を、これからも語り継いでいくことが、私たち子どもの務めだと思っています。



監督・脚本

平 一紘 さん
Kazuhiro Taira

この度『木の上の軍隊』の監督・脚本を務めることになりました。僕は、沖縄で生まれ育ち沖縄戦についてたくさん知っているつもりでした。

しかし、この映画を撮るためにあらゆる角度で取材し、あの戦争を見つめた時、『木の上の軍隊』で皆さまに見せたい景色が見えてきました。たった二人の兵隊の、可笑しくも壮絶な2年間の戦いをぜひ劇場で体験していただきたいと思っています。堤真一さん、山田裕貴さんは

見事なまでに、兵士たちの決意と揺らぎ、葛藤を演じてくれました。僕はただ、それを見守るように撮影しました。それだけで十分でした。

そして終戦80年の節目に公開するということ。沖縄で撮ったということ。伊江島で撮ったということ。生きた樹で撮影したこと。それらは全てスクリーン上で皆さまに肉迫するでしょう。本当に起きた事の恐ろしさと、素晴らしさをご覧ください。



1. 出兵前に撮った進さんの父・義盛さんの写真。義盛さんは昭和19年10月に亡くなった（写真はS18頃） 2. 進さんと一緒に戦後の過酷な環境を乗り越えた母・トシエさんと妹・フジさん

戦没者遺族の高齢化は、

減少する戦争体験者
それでも続く活動を

農業に悪戦苦闘。当時の農業は牛や馬を使うのが一般的で、力の弱い女性が牛や馬を引くのは難しかった。「あの頃は、とにかく食料がない。私もあまり覚えていないけれど、麦が半分、米が半分ですよ。非常に貧しい生活が続きました」。

戦争の記憶を風化させない取り組みに深刻な影を落としている。市内でも遺族の多くが80歳を超え、戦争体験を直接語ることでできる人が年々減少しているのが現状だ。「小林市全体を見ても、多くの方が80歳を超え、遺児も亡くなっていく」。慰霊の場の維持も難しくなっている。市内では、須木地区の遺族協会が今年解散し、野尻地区も5年前に解散。役員のなり手不足は深刻で、活動の継続が困難になっている。その一方で、平和への想いを次世代へつなぐための活動も行われている。市遺族協会では、30人ほどで組織する「青年部」が結成され、将来は彼らが会の活動を引き継いでいくことが見込まれている。多くは50代以上だが、戦没者の孫世代にあたる彼らが、戦争の記憶と平和への願いを未来につなぐ重要な

役割を担っている。「私たちは高齢になってきたから、できないことが多くなってきた。若い人たちに移行していくことが、平和な時代を未来につなげるためにも絶対に必要」と、次世代への期待を語る。忘れてはいけない戦争の記憶戦後80年が経過し、戦争を知らない世代が増える中で、体験者の直接の声は貴重なものとなっている。戦争を忘れてしまうことは恐ろしいことだと進さんは警鐘を鳴らす。今もなお、世界の各所で戦争が起きている現実があるからだ。「戦争があつたということ。記憶のほとんどが苦しかったことばかり。戦争の無い今が良いということとをどうか知ってほしい」。この言葉には、戦争に苦しまれた進さんの切実な願いが込められている。

遺族が語る戦争の悲劇 記憶の継承、 平和への願い

戦争が残した深い傷跡と、平和への切なる願いを語った橋満進さん。進さんの父は、彼がわずか4歳の時に戦死。記憶はほとんどないが、母から聞かされた話が、戦争の残酷さを鮮明に伝えている。



小林市遺族協会 会長 橋満進さん(85)

幼き日の別れと
遺された母子の苦難

「何回通つても父とは決して会うことはできなかった。玄関までしか行けず、でも父が好きだったからと持って行った団子は全部取られる。そんな時代」。都城の部隊に入隊した父に会うため、母と妹と3人で小林から都城まで汽車で通った進さん。面会は一度も叶うことなく、進さんの父は台湾沖で乗船していた船が攻撃を受け、33歳という若さで命を落とした。遺骨すら戻ることはなく「船も水の底だから、箱だけが帰ってきた。中には何も入っておらず、ただ紙切れが一枚。どこで戦死したのか、というのが書かれていただけ。今では考えられないでしょう」と、当時のむなしさを語る進さん。終戦後、遺された家族を待つていたのは想像を絶する苦難だった。28歳で夫を亡くした母は、体力仕事の

令和6年度「平和への思い」
作文最優秀作品

「平和な世界へ」

種子田 亜優さん
(当時南小6年)

皆さんは、戦争の怖さを実感したことはありませんか。戦争とは、国と国との武力を用いた争いのことであり、多くの犠牲者が出る、とても怖く危険で、悲惨なことです。そんな戦争が昔、日本でも起こっていました。それは決して忘れてはいけない日です。

1945年8月6日の午前8時15分に広島に原子爆弾が落とされ、その3日後の8月9日の11時2分には長崎に原子爆弾が落とされました。アメリカは、世界で初めて広島に原子爆弾を落としました。その原子爆弾により、約14万人の犠牲者が出ました。原子爆弾が落とされた真下にあった建物も焼け崩れ、今では「原爆ドーム」として現在にも残っています。

私は今、当たり前のように家族と過ごし、学校に通い、日々を過ごしています。その当たり前の日常が、ある日突然なくなると考えるととても怖いで



す。家族に会えない、家族や友達がどこにいるかもわからない...そんなこと考えたくもないです。原爆を落とされた広島と長崎の人たちは当たり前の日常を一瞬で奪われました。私のひいおじいちゃんも14歳の時に軍隊に入り、戦争を経験しました。94歳になった今でも私が会いに行くと戦争の話をします。最近まで週に一度、語り部として市役所に行き、戦争についての話をしていました。何十年たった今でも、強く記憶に残っているぐらい怖いものなのだと思います。

戦争について知ったことで平和への想いがより強くなりました。当たり前の日常を当たり前だと思わず過ごしていきたい、当たり前のことに感謝したいです。今、世界のどこかでも戦争によって苦しんでいる人がいます。戦争のない平和な世界が訪れますように自分ができることを探し、行動したいです。

戦没者追悼式(小林地区)

先の大戦における戦没者の方々を追悼するとともに、世界恒久平和を祈念します。また、今年度、市内小中学生が書いた、「平和への思い」を題材とした作文の最優秀作品の朗読なども行われます。

■日時 10月3日(金曜) 10時開式
■場所 文化会館



令和7年度慰霊巡拝

国外での戦没者や拘留中死亡者を慰霊するため、遺族代表による慰霊巡拝が実施されます。実施地域や時期などの問い合わせや参加申し込み先は次の通りです。
●申・問＝県福祉保健部指導監査・援護課
Tel 0985・26・7061

令和7年度被爆二世健康診断

両親のどちらかが被爆者健康手帳を所持しており、原爆投下後に生まれた人（胎児被爆者は除く）で、健康診断受診を希望する人を対象に健康診断を実施します。（事業詳細は29頁に掲載）



機銃掃射で娘を亡くした父・清吉を演じる
ひだか けいすけ
日高 啓介 さん (53)

笑顔の奥にある 言葉にならない想いを伝える

僕が演じる清吉はもともと腕利きのパン職人でした。でも、戦争の空襲で、可愛がっていた長女のめぐみを亡くしてしまいます。そのあまりのショックで、記憶が曖昧になってしまった。今はいつもぼーっとしていて、頭の中は亡くなった娘のことばかり。

彼は、すごく愛情深くて、誠実で真面目な、ごく普通の人なんです。だからこそ、娘が目の前でいなくなったという現実を受け入れられなかった。

このお芝居は、戦争の悲惨さを描いてはいますが、僕が観客に感じてほしいのは、それだけではありません。人と人が肩を寄せ合って生きていく温かさです。人は一人では生きていけない。その一番小さなコミュニティが家族で、その家族を大事にし、隣にいる人を思う気持ち。この物語には、そういう当たり前で、でも一番尊いものが、たくさん詰まっている気がします。



普段は活発な意見と笑い声が交わされる和やかな雰囲気だが、物語が核心に迫る場面では場の空気は一変、長年の交流で育まれた息の合った掛け合いがみられた



西小林国民学校の機銃掃射をもとに制作された演劇 小林三姉妹 ～幸せのパン種～

出演：25 馬力＋こふく劇場

2016 年公演時の写真

小林市を拠点に活動する「劇団 25 馬力」と都城の劇団「こふく劇場」が、西小林国民学校の機銃掃射をモチーフに制作された演劇を上演する。
終戦間際の悲劇に巻き込まれた家族を描く本作を通じて伝えたい平和への想いを、劇団代表の神水流 じん子さんが語る。



劇団「25 馬力」
かみづる じん子
代表 神水流 じん子 さん (53)

「戦後80年になるから」

私たち劇団25馬力が旗揚げして25年。この節目の年に、再び『小林三姉妹』幸せのパン種』を上演します。この作品は、今は亡き劇作家の藤井貴里彦さんが戦争の悲しみを忘れてはならないという願いを込め、私たちとこふく劇場の二つの劇団のために書き下ろしてくれた作品です。

初演から時が経ち、私自身も歳を重ね、その間に藤井さんはいなくなってしまう

いました。キャストも変わります。でも、演じるたびにこの物語は、まるでバームクーヘンのように一層一層、深みと厚みを増していくのを感じるんです。

初演の時、私たちはこの物語の背景にある「西小林の悲劇」について学びました。機銃掃射で家族を亡くされた方のお宅に伺い話を聞き、今も弾痕が残る場所を見せていただいたり。

そうして私たちが直接見聞きしたことを新たなキャストに伝えていく。

そして、公演の前には必ず西小林小学校の慰霊碑にお花を持って行くようにしています。

知ってもらうことが大事だと信じて

私は、観るときに「体温」を感じることができなのが

藤井さんという人がいたことを感じてもらえたら。

藤井さんは戦争について生前、こう記しました。

「今も世界のどこかで戦争が続いている。砲撃の音が聞こえないとしても、戦火の中にある人々と私たちが同時代に生きていることは確かだ」。

その状況は、今も変わっていません。

未来を担う子どもたちには、ただ幸せでいてほしい。そのためには、私たちがこの物語を伝え、「知ってもらおう」ことが大事なのだと信じています。



小林三姉妹 ～幸せのパン種～

昭和30年代初め、コバヤシ市。小さなパン屋「タロのパン」は営業休止状態。父の清吉が瓶の蓋を開けようとして体を壊し、惚けてパン作りを忘れてしまったのだ。名古屋に嫁いで行った次女・あかね、バスの車掌の三女・たまみ、高校三年生の四女・かおり、そして母ハツエのこの家族には、けれどどうしても忘れられないことがあった。それは終戦直前に空襲でなくなつた、長女・めぐみのことだった・・・
当時の懐かしい歌謡曲の数々を交えて、家族やこの店を取り巻くおかしな人々に起こる、悲喜こもごもを描いた笑いと涙の物語。

■日時

8月9日（土曜）
19時開演
8月10日（日曜）
14時開演

■場所

文化会館小ホール

■出演

劇団こふく劇場、
日高啓介 ほか

■チケット

一般 2500円
U25割 1000円
ペア 4000円

※当日券は500円増 ペアは予約限定で枚数に限り有り

■その他

本事業は、こばやしの人とまちが輝く！元気と笑顔ハッシン事業を活用しています。

●チケット購入・問い合わせ

Mail 2025bariki@gmail.com
Tel 23・7995（留守電対応）

▼チケット情報など、劇の詳細は「劇団 25 馬力」公式 SNS で確認してください



▲X(ツイッター)



▲Facebook



子どもたちの心に 「平和の種」をまく――

教科書で学ぶ歴史。それだけでは伝えきれない、一人ひとりの痛みや悲しみ、そして平和への強い願い。子どもたちは修学旅行で広島や長崎、知覧などを訪れ、戦争の実相に触れる。そして、地域で暮らす戦争体験者が語る言葉は、子どもたちの心に深く刻まれる、何よりの「生きた教材」だ。



ひろまさ しんこ
久嶋 新子 さん (86)

7月11日：須木小学校で講話

―― Profile ――

当時日本の統治下にあった台湾で生まれ、3歳の時に太平洋戦争が開戦。9歳の時に引き揚げで日本へ。戦争は幼少期の数年間だけの体験だったが、忘れられない記憶として強く心に残っているという

戦争が始まったのは私が3歳の時。戦いは年々激しさを増し、日本と同じように台湾でも学童疎開がありました。4歳上の姉が疎開する時、母と見送りに行ったことを覚えています。

広い運動場にはバスが並び、今にも泣き出しそうな顔をしている姉。私も母と一緒に手を振りましたが、あの時の寂しさは忘れられません。いつ帰れるかも分からない、親との別れというのは、幼い子どもにとつてどれほど辛かったことでしょう。

終戦間際、小学校に上がる頃には空襲も激しくなり、命の危険を感じることもありました。

友人と川に魚釣りに行っていたときのことで。突然の空襲警報。周辺には隠れるところも



子どもたちは、久嶋さんが話す戦時中の生々しい体験談を真剣な表情で聞いていた

ないので、一目散に走って逃げました。たまたま近くに倒れていた木の陰に隠れた直後、目の高さくらいかと思うほど、目前に敵機が飛んできたんです。なんとか銃撃されずに済みましたが、本当に運が良かったと、今でも思い出し、怖くなります。

未来を担う子どもたちには、平和の大切さや戦争の恐ろしさを知り、この平和な世の中を、どうか守り続けてほしいです。



須木小学校5年
なつき ゆき
夏木 結風 さん

この平和がずっと続いてくことを願っています

1番心に残ったのは疎開の話です。実際に話を聞くまでは、小林でも疎開している人や戦争に出ている人はいないと思っていたので、とてもびっくりしました。空襲の話もあり、戦争中の子供たちは、とても苦しい思いをしていて、早く戦争が終わってほしいと願っていたと思います。

9月には修学旅行で平和学習もあります。今日聞いた話を思い出しながら、昔の人の気持ちを考えながら学んできたのです。

戦争の話を聞いた今では、みんなが日常で、普通に暮らせる今が平和なんだと感じました。この平和がずっと続いていくことを願っています。

平和学習で学んだ「当たり前」の尊さ



西小林中学校2年
やまもと いちか
山本 一花 さん

6月22日
修学旅行で広島を訪問

広島での平和学習のこと。事前に写真では見ていましたが、実際に原爆ドームの前に立った時、一発の爆弾が落とされた場所だ、と強く意識し、私は戦争の恐ろしさを肌で感じました。

特に心に深く刻まれたのは、被爆した子どもの話。重度の火傷を負った子どもたちの伸びてきた皮膚を先生がハサミや素手でちぎりとったというのです。

この話を聞いた時、一発の爆弾がどれだけ多くの命を奪い、どれだけ悲惨な出来事を引き起こしたのかを痛感しました。

「どうして私たちがこんな目に遭わないといけないの？」もし私がその時代の子どもだったら、きっとそう思ったで

しょう。食料もなく、お風呂にも入れず、中学生から戦場に行かなければならない。想像するだけで、どれだけ辛かったか。私たちが今、普通に生きていること。家族や友達と当たり前のように過ごす時間。家に帰ってこられる瞬間。これらは、昔の人たちにとっては決して「当たり前前」ではなかった。そのことに改めて気づいた時、私は今この瞬間がどれだけ幸せなのかを感じるようになりました。

これから、原爆の日や終戦の日などには、世界中の人たちが平和を祈って黙とうをします。私も、戦争が二度と起こらないように、この平和を大切にしていきたいと強く思います。

子どもたちが平和について深く考えるきっかけになれば

「戦争はいけないこと」。それは子どもたちも理解しています。しかし、動画や画像だけでなく、実際に現地に赴くことでその学びは深まります。特に印象的だったのは、原爆資料館での子どもたちの姿。当時の写真などを真顔で、真剣な表情で見入る姿からは、彼らがどれほどこの学びに向き合ってい

るのが伝わってきました。

この体験が子どもたちが平和について深く考えてくれるきっかけになってくれればと願っています。

終戦の日には、修学旅行で見たことや聞いたことを思い出しながら、平和を願って黙とうするなど、この学びを行動に移してもらえたらと思います。



西小林中学校 教諭
わきだ やすひろ
早田 泰大 さん

「私が幸せになればなるほど、可哀想だったなと思う」。

91歳の木佐貫ヒサエさんの言葉が、深く胸に突き刺さる。腕に銃弾を受け、親友を亡くした「あの日」から80年。

今、ヒサエさんの傍らには、孫の智菜美さん、そしてひ孫の康誠くん^{やすなり}の弾けるような笑顔がある。戦争を生き抜いたからこそ手にできた、かけがえのない宝物だ。

しかし、その笑顔は、あまりにも奇跡的な偶然の上にあった。もし、あの日抱えていた弁当箱がなければ。もし、銃弾がほんの少しずれていたら。ヒサエさんの命は絶たれ、智菜美さんも、康誠くんも、この世に生を受けることはなかった。

戦争とは、今ここにあるはずの誰かの未来、その未来に生まれるはずだった幾多の笑顔を、無慈悲に奪い去る行為に他ならない。

孫の智菜美さんは、祖母の体験を「命のバトン」と表現する。「祖母がもしあの日：と思えば、私はここに存在しない。命のつながりをすごく感じます」。その言葉は、単なる血縁の物語ではない。

戦争の悲惨さ、理不尽さ、そして平和の尊さという重い記憶を受け継ぎ、未来へ語り継いでいくという、世代を超えた決意の証だ。

小学生の時にヒサエさんの話を聞いて作文を書いたと話す智菜美さん。まさにそのバトンの第一走者としての誓いだったのだろう。

ヒサエさんの脳裏に今も焼き付いて離れない、水を求めながら息絶えた友の姿。彼女たちにも、ヒサエさんと同じように、愛する人と結ばれ、子や孫に囲まれる幸せな未来があったはずだった。

「戦争がなければ、みんな私のように：」。

その言葉にならない感情は80年の時を経てもなお、私たちの心を激しく揺さぶる。

戦争を直接知る世代が年々少なくなっていく。生々しい記憶の熱量が薄れ、歴史の教科書の一行になってしまいかねない今、私たちはヒサエさんから手渡された「命のバトン」を、どう未来へつないでいけば良いのだろうか。

ヒサエさんが見つめる康誠くんの笑顔。それは、私たちが守るべき未来の象徴だ。

「命が一番大事」「あの戦争だけはしないほしい」。

その切なる願いを、決して忘れてはならない。ヒサエさんの記憶を、願いを、私たち自身のものとして受け止め、語り継いでいくこと。

それこそが、戦争で失われたすべての命に応え、二度と悲劇を繰り返さないと誓う、私たちの世代に課せられた責務なのではないだろうか。

—— 戦後 80 年 ——

未来に繋げ

命のバトン

原爆死没者と戦没者を偲び
戦争のない 平和な未来を願う

原爆死没者と戦没者を偲び、平和の実現を祈るためサイレンを鳴らします。
1分間の黙とうをお願いします。

■日時

- ▼広島原爆の日 8月 6日（水曜） 8時 15分
- ▼長崎原爆の日 8月 9日（土曜） 11時 2分
- ▼終戦の日 8月 15日（金曜） 12時

■忠霊塔開放期間

8月 13日（水曜）～8月 15日（金曜）

左から
木佐貫ヒサエさん
弓場康誠くん
弓場智菜美さん

新燃

●問＝危機管理課 Tel 0984-23-1175

岳噴火

6月22日16時37分頃、霧島連山・新燃岳（1421m）が7年ぶりに噴火。噴煙は火口から500m以上に上がり、市内でも降灰が確認されました。市では、緊急の会議を開き、状況を把握するとともに今後の対策措置を確認。メール配信サービスや防災ラジオ、LINEなどで情報を発信し注意を呼びかけました。

翌23日には、火山ガスの放出量が急増したため、氣象庁は噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から3（入山規制）に引き上げ。市は、24日に夷守岳登山道入口と大幡池登山口の3カ所に「登山禁止看板」を設置するなどの対応をしました。新燃岳はその後噴火を繰り返し、7月3日には噴

煙が火口から5千mまで上昇。

7月4日には16時頃から市内で硫黄のような匂いが充満し、18時50分に県は「二酸化硫黄注意報」を発令しました。この注意報が発令されるのは、県内でも昭和46年以来54年ぶり。同注意報は5日に解除され、二酸化硫黄臭による体調不良者などの被害報告はありませんでした。

今回の噴火で、小林市では7月22日現在、大きな被害は出ていませんが、霧島市では降灰の影響で水道管と温泉管が損傷。住宅や温泉施設など約300軒が被害に遭いました。

小林市でも、いつ噴火による被害が起きるか分からないため警戒が必要です。

過去2回の爆発的噴火

平成23年1月27日、300年ぶりにマグマ噴火が発生。空振でドアや窓が揺れるほどの大規模噴火で、多量の灰を噴出し、風下側では露地野菜などに灰が積まりました。

同年2月14日には、市内で多量の噴石による窓ガラスやプラスチック製の屋根が割れるなどの被害が多数発生。噴石は、大きさが1m〜5mほどの大きさで、遠いところでは東方地区まで飛び、広い範囲に被害をもたらしました。

この一連の噴火活動により、市内の小中学校では教

室にエアコンが設置され、児童生徒がヘルメットを被って登下校することとなりました。現在でも活用されている学校のエアコンやヘルメットの多くは、この頃から始まったものです。

また、平成29年10月11日には平成23年以来、約6年ぶりに噴火が発生。10月17日以降は落ち着いていたものの、翌年の3月6日には爆発的噴火を観測しました。その後も、断続的に噴火が発生し、市内では「絶景マラソン大会」の中止など大きな影響をもたらしました。



爆発的噴火の様子（平成23年）



噴石で割れた車の窓ガラス（平成23年）



車に多量の灰が積もる（平成23年）



ビニールハウスに灰が積もる（平成30年）



ホウレンソウに灰が積もる（平成30年）





非常用グッズ編

大規模な災害になった時は外部からの支援が届くまで時間がかかります。

もしもに備えて最低3日間（出来れば1週間分）生活できるように備蓄しましょう。非常用品は備蓄の一部と考え、備蓄品の中から避難生活に必要なものをリュックサック1つにまとめておきましょう。

また、せっかく準備しても使えなかったら意味がありません。「備蓄品の定期的な確認」をすることも大切です。例えば、毎年備蓄品の確認をする日を決めて家族で取り組むのも良いアイデアです。

噴火だけではなく、大雨や台風の災害時にも備えて非常用グッズを準備しておきましょう。



情報編

小林市は、新燃岳の北東に位置しています。噴火した時の風向きや降灰予報を確認して、火山灰の対策につなげましょう。

霧島山火山防災マップ

霧島山で噴火の可能性が高い「新燃岳」「御鉢」「えびの高原周辺」「大幡池」それぞれの立ち入り規制区域などを示したものです。

霧島山の火山活動についての最新情報を集めながら、このマップを活用して、噴火への対策を進めましょう。

▼詳しくはこちら



非常用グッズ一覧



飲料水



食料



衛生用品



医薬品



ゴーグル



照明器具



マスク



ヘルメット



情報収集ツール

降灰予報

気象庁が降灰による影響から身を守るために「降灰量」や「降灰範囲」を予測するものです。

また、降灰予報は気象庁ホームページだけではなくテレビやラジオなどでも情報を発信しています。用途に合わせて利活用し、被害の軽減につなげましょう。

▼詳しくはこちら



特徴

- ・利用者の用途に合わせて3種類の降灰予報（定時・速報・詳細）を発表
- ・市町村ごとに発表して利用者の防災対応をよりきめ細かく支援

・非常用グッズの準備

最低3日分の飲料水と保存食を準備しておきましょう。懐中電灯、防塵マスク、ヘルメット、ゴーグル、ラジオ、医薬品なども準備しておく心安心です。

・正しい情報を確認

市ホームページ掲載の「霧島山火山防災マップ」を見て、「噴火警戒レベル」に対応する危険な場所を確認しておきましょう。「噴火警戒レベル」は変動するため最新の情報を確認する必要があります。また、災害時は偽情報や誤った情報が広がるため、全ての情報をうのみにせず、正しい情報なのか確かめてから行動してください。そのために、市のLINEやメール配信サービス、防災ラジオなどの様々な情報源から正しい情報を受け取ってください。



▲メールはこちら



▲LINEはこちら

火山灰の影響と身を守るための対策



健康への影響

火山灰の粒子は非常に細かく、呼吸によって肺の奥深くまで入ることがあり、せきの増加や炎症などを伴う胸の不快感を感じる場合があります。



対策

火山灰がひどい時は、不要不急の外出を控えて屋内で過ごすしてください。やむをえず外出する時は、防塵マスクを着用し火山灰を吸い込むのを避けましょう。



皮膚への影響

まれに皮膚の痛みや腫れ、引っかき傷からの化膿を起こすことがあります。



対策

長袖・長ズボンで肌を覆い、露出を避けましょう。



道路への影響

視界が悪くなるだけでなく、火山灰が薄く積もった路面は、湿っていても乾いていても非常に滑りやすく、ブレーキが利きにくくなります。また、自動車故障の原因にもつながります。



対策

火山灰がひどい時は、可能な限り自動車の運転を避けるべきです。どうしても運転しないといけない時は、ヘッドライトを点けてゆっくり運転しましょう。



目への影響

火山灰が入ることで、目の異物感、痛み、かゆみの症状などを発症することがあります。



対策

防護メガネを着用するなど、目の中に火山灰が極力入らないよう気をつけましょう。

危機管理課 おがた ひろのり 緒方 宏則 課長



日頃からできる
3つの備え

地震や火山の噴火などは予知することがとても難しい災害です。今回の新燃岳噴火のように、いつ噴火するか分からないからこそ、日頃からの備えが大切になります。備えは「自分の身を守る」ことにつながります。特に次の3つの備えをお願いします。

・避難場所や避難経路の確認

住んでいる地域の避難場所や避難経路を事前に確認し、複数のルートを把握しておきましょう。実際に避難場所へ行ってみることも有効です。

また、地域の防災訓練に参加して実践的な知識・技術を習得しましょう。

自衛隊員が子どもに笑顔を届ける カブトムシなどを保育園に寄贈

7月3日、陸上自衛隊えびの駐屯地の隊員でつくる曹友会（犬童淳是会長）が朝日保育園の園児26人に休日などに捕獲したカブトムシやクワガタ、メダカを寄贈しました。活動は、子どもたちに笑顔届けたい想いで、令和2年から実施。園児たちは初めて見るカブトムシやクワガタに少し怖がりながらも笑顔が溢れていました。



坂下エイ子園長は「本物のカブトムシなどを初めて見る子どもたちはとても喜んでいる。この活動を通して、命の大切さを知ってほしい」と話しました

誰もが孤独にならない環境づくりで 犯罪や非行のない社会を目指す

7月1日、「第75回社会を明るくする運動」内閣総理大臣メッセージ伝達式が開かれました。同運動は7月を強化月間として全国で展開しているもの。小林地区保護司会の川畑静子会長は「罪を犯した人の更生を信じて待ち、諦めずに寄り添い続けることができる社会づくりを進めることが安全で安心な社会の実現につながる」と話しました。



これは、国内で検挙された人の約半数を過去に罪を犯した人が占めている現状があることから、その立ち直りを地域で支えようという取り組みです

県内外からメダカ愛好家が集まる 「ニシモロメダカフェス」開催

6月29日、市内外から20を超えるメダカ店舗が集まる、「ニシモロメダカフェス」がのじりこびあで開かれました。イベントでは、メダカすくい大会や自慢のメダカオークションといったメダカに関する催しをはじめ、西諸地域の食が楽しめるフードマルシェなどが開催され、会場には県内外から多くのメダカ愛好家たちが集まりました。



鹿児島県から来場した山下俊文さんは「メダカ関連のイベントは貴重なので近隣の県でも行く。見たことないメダカに出会えてうれしい」と話しました

自立支援型介護予防を進める 県内初事業に13事業所が参加

6月30日、市が行う県内初の事業に参加する事業者に登録証を交付しました。市が新たに取り組むのは、市が指定した、介護サービスを受ける利用者の分析などに用いるシートを使用する事業所を支援する「自立支援型ケアマネジメント促進事業」と介護サービス利用者の生活機能が向上した事業者を報奨する「QOL（生活の質）向上事業」の2つです。



2つの自立支援型介護予防の取り組みに参加するのは市内計13の事業所。当日は、介護予防への思いや意義などについての意見交換会も行われました

市内学校や関係機関の連携強める 第1回小林教育みらい創造会議

6月26日、文化会館で「第1回小林教育みらい創造会議」が行われ、市内の高校や専門学校、南九州大学などが参加しました。会議は各学校が連携し合って、児童生徒の社会的な自立や持続可能な担い手づくりの推進を目的として実施。各学校の特色をプレゼンし、今後の具体的な連携・協力の在り方について情報を共有しました。



大山和彦教育長は「会議を通じて、各学校や関係機関がそれぞれの強みを活かした具体的な連携につながる第一歩となってほしい」と呼びかけました

小林中学校卒業生が母校に寄付

5月21日、小林中学校卒業生の昭和42年度卒業同窓会と昭和55年度卒業同窓会が母校を訪れ、肝付正籍校長に寄付金を手渡しました。寄付は今後の教育活動に活用されます。



地婦連が市長と教育長に花束を贈呈

小林市地域婦人連絡協議会（上原裕子会長）が6月12日に教育長を、26日には市長を訪れ、父の日訪問として日ごろの感謝を込めた花束を贈りました。県地域婦人連絡協議会が知事に花束を贈呈したことをきっかけに本市でも平成14年から続く取り組みです。



小林看護医療専門学校の2年生が 看護師への誓いを心に灯す

6月20日、小林看護医療専門学校の2年生26人が「誓いの式」に臨みました。式は、病院実習など学習が本格化する前に医療職・看護職を志す者としての誇りと自覚を誓い決意を新たにすること。学生は保護者や病院関係者などが見守る中、ナイチンゲール像から継承した灯火を手し、自分たちで考えた言葉を真剣な表情で宣誓しました。



学生たちは声を揃えて「患者さんを第一に考え、相手の気持ちや表情をくみ取って発言や行動ができるように努めます」と力強く誓いました

秀峰高校ローイング愛好会が発足 小野湖でローイングを初体験！

小林秀峰高校では、1年の男子生徒6人によるローイング愛好会が発足しました。同愛好会は週3日、室内練習で活動。6月21日、22日には令和9年国スポ競技会場の小野湖（須木地区）で初めてローイングを体験しました。当日はローイング経験者を指導者として招き、2班に分かれて約2時間オールを使い方などを学んでいました。



主将を務める金崎蒼さん（1年生）は「最初は難しかったけど、慣れてきたら楽しかった。1年生大会は全力でやり切りたい」と意気込んでいました

選挙をもっと身近に感じてほしい 市内高校生が選挙事務を体験

7月、第27回参議院議員通常選挙に向けて、市内3高校の生徒21人が期日前投票などの手伝いを行いました。将来、選挙権を手にする高校生が選挙を身近に感じ、投票所に足を運ぶきっかけになってほしいと市選挙管理委員会が企画したものの。高校生は受け付けや投票用紙交付などの投票事務の体験を通して選挙への理解を深めました。



同委員会では、選挙啓発活動として市役所や市内スーパーでチラシやポケットティッシュなどを配布。近年低迷している投票率向上に向けて取り組んだ

東方小学校の児童と保護者が 河川の大切さを楽しみながら学ぶ

7月12日、東方小学校児童とその保護者約40人が三之宮峡周辺の河川清掃活動やウナギの稚魚放流、魚のつかみ取り大会を行いました。この活動は、河川環境の保全や再生を考えてもらうために、同校PTAが小林高原野尻漁業協同組合と協力して実施。児童らは魚のつかみ取りを楽しみながら、身近にある河川への関心を高めました。



東方小は「持続可能なみやざきづくりを実現する環境教育推進校」の指定校。今回の活動は、SDGsの推進に関する取り組みの中で目玉の一つです

無病息災や五穀豊穰を祈る 野尻小で「東麓六月灯まつり」

7月19日、野尻小学校で「東麓六月灯まつり」が開催されました。六月灯は旧薩摩藩領に伝わる無病息災や五穀豊穰を祈る夏祭り。神事後、地元保育園児による子どもみこしで祭りはスタート。歌や踊りなどのステージイベントで盛り上がったほか、野尻町東麓出身の江戸太神楽師仙若さんによる曲芸の披露などが行われました。



六月灯は無病息災や五穀豊穰を祈る祭り。主催者の野尻小学校区まちづくり協議会の大畑孝章会長は「伝統ある祭りを後世に引き継ぎたい」と話しました

SUP・カヤック体験を通して 須木小児童が小野湖の大自然を満喫

7月14日、宮崎国スポ・障スポでカヌーとローイングの競技会場にもなっている須木地区の小野湖で、須木小児童がSUP※とカヤックを体験しました。3～6年生の児童21人は4班に別れて交代で体験を行い、全身で小野湖の大自然を満喫。5年生の小園八華葉さんは「カヤックはコツを掴むと速く進めて楽しかった」と話していました。



※スタンド・アップ・パドルボード（Stand Up Paddleboard）の略で、ボードに立ち、パドルを使って水面を漕いで進むウォータースポーツのこと

小林西高校「三ツ星レストラン」 磨き上げた料理の腕で振る舞う

7月10日、小林西高3年生を中心に料理を振る舞う「三ツ星レストラン」のプレオープンが同校でありました。生徒は朝8時から仕込みを始め、「豚の角煮」や「天ぷら」、「鶏の酒蒸し」など15品を完成。昨年まではコース料理で提供していましたが、今年は趣向を変え、松花堂弁当として教育長や出身中学の校長などに振る舞いました。



きたかたともき 北方朋季さん（3年生）は「たくさん人に食べてもらえてうれしかった。料理は失敗もあるけど楽しい、今後も技術を伸ばしていきたい」と話しました

デフリンピックキャラバンカーでPR

6月27日に県聴覚障害者協会が東京2025デフリンピックの周知広報を目的としてキャラバンカーで来庁し、市長を表敬訪問しました。デフリンピックは、「耳が聞こえない・聞こえにくい人のためのオリンピック」で、4年ごとに開催されます。



人権擁護委員2人が表彰状を受彰

5月22日、県人権擁護委員連合会総会でわかまつてるお 若松照雄さん（写真㊦）が全国人権擁護委員連合会会長表彰状、佐藤宗一さんが宮崎地方法務局長表彰状を受彰しました。これは、長年尽力した人権相談活動や人権尊重思想の啓発活動が認められたものです。



お笑い芸人チキンナンゴーに学ぶ メディアとの上手な付き合い方

7月4日、東方小学校でメディアとの上手な付き合い方を学ぶ授業が行われました。講師に招かれたのは、お笑い芸人「チキンナンゴー」の2人で、スマートフォンなどを長時間使うことで起きる悪い影響などについて紹介。2人の漫才や手作りのイラストを交えながら行う授業に、子どもたちは笑顔でメディアとの付き合い方を学んでいました。



2人は「宿題が終わったらスマホを見てもよいと決めるだけではなく、何ページやったら何分間使えるなど、親と細かく話し合うことが大事」と話しました

市内小中学校の未来を考える 学校の在り方に関する意見交換会

7月9日、市教育委員会が須木総合ふるさとセンターで「学校の在り方に関する意見交換会」を開催しました。今年の2月に市教育みらい検討委員会から出された、市内小中学校の在り方に関する提言書を受けて、保護者や地域住民の意見を集めるために開催したもの。当日は25人が参加し、学校の未来について意見を交わしました。



意見交換会は7月から8月に開催する前半の部と10月から11月にかけて開催予定の後半の部に分けて、各小学校区ごとに開催しています

募集

河川改修に伴う建設
発生土の無償受け入
れ候補地の募集

国が行う河川改修工事などの建設発生土を受け入れる候補地を公募します。

◆公募対象

法人・個人を問いません。

◆申込方法

申請書を窓口へ提出

※申請書は建設課にあります

◆受入条件

・候補地は市内の土地に限る
・建設発生土の費用は無償
・測量と支障木伐採は受け入れ者負担 など

◆決定方法

川内川河川事務所と協議して決定

◆申・問

・国土交通省九州地方整備局
川内川河川事務所京町出張所
TEL 0996・22・3809



保健・福祉

令和7年度 被爆二世健康診断事業

◆対象者

両親のどちらかが被爆者健康手帳を所持しており、原爆投下後に生まれた人（胎児被爆者は除く）で、健康診断受診を希望する人

◆申込方法

任意の様式に下記の必要事項を記入の上、封書で申し込みください。

◆料金

無料 ※各医療機関への交通費は自己負担

◆必要事項

▼本人に関する情報

氏名（フリガナ）、性別、生年月日、住所（郵便番号）、電話番号、過去の受診歴（年度・受診結果）、受診を希望する医療機関名、多発性骨髄腫検査の希望の有無

▼親に関する情報

氏名（フリガナ）、住所（郵便番号）、電話番号、被爆者健康手帳の番号

◆添付書類

新規申込者は次の書類を添

小林市市民表彰 候補者の推薦受付

市の振興発展、市民生活の向上などに多年尽力し、功績が顕著な人を表彰します。

◆部門

① 地方自治 ② 産業経済
③ 教育・芸術・体育・文化
④ 公共福祉 ⑤ 市民生活

◆主な選考基準

・30年以上の功績を有する人
※特例的なものは除く
※刑罰を受けた人や重大な交通事故違反者などは除く

◆推薦方法

所定の調書と履歴書を提出

◆用紙配布先

企画政策課、須木庁舎地域振興課、野尻庁舎地域振興課
※市ホームページからもダウンロードできます

◆提出締切 8月15日（金曜）

◆表彰式開催日

11月3日（月曜）



▼詳細はコチラ

◆申・問・企画政策課

TEL 23・3470

講座・催し

生涯学習講座

中央公民館講座

◆場所 中央公民館

【音の宅配便講座】

◆日時（各土曜）

10月4日、11月8日
11月22日
10時～11時30分

◆内容

①懐かしの昭和歌謡を楽しむ
②笑って歌って元気になろう（ギター＆ピアノ）
③三線・カリンバ・トランペットの音色に癒されよう

◆参加費 500円

◆定員 30人

◆申込締切 9月19日（金曜）

【夏休み！書道教室】

練習から清書に挑戦

◆日時 8月9日（土曜）

① 10時～12時
② 13時30分～15時30分

◆参加費 無料

◆習字道具持参

◆対象 小・中学生

◆定員 各10人

案内

児童扶養手当等現況届 の届け出は忘れずに

児童扶養手当とひとり親家庭医療費助成の現況届の手続きがなかった場合、11月以降の手当の支給や医療費助成が受けられなくなります。

◆対象者

案内文を送付しています。※現在、所得制限により手当等を受給していない人も届け出が必要です

※届け出が2年間提出されない場合は、受給資格が喪失されます

◆受付期間（土日祝日除く）

8月1日～8月29日
8時30分～17時15分
※8月7日、21日はこども課のみ19時まで

◆申・問・こども課

TEL 23・1278
TEL 48・3132
・須木庁舎住民生活課
・野尻庁舎住民生活課

TEL 44・1100

◆申込締切 8月8日（金曜）
※①、②どちらか選択

のじり生涯学習講座

◆場所

野尻町保健福祉センター

【ビーズアクセサリ講座】

ビーズで可愛いアクセサリを作ろう

◆日時（各金曜）

① 8月22日 ② 9月5日
③ 9月19日 ④ 10月3日
19時～21時

◆参加費 500円

◆材料費別途

◆定員 10人

◆申込締切 8月15日（金曜）

【レーザークラフト講座】

本革を使って小物を手縫いで作ってみよう

◆日時（各火曜）

① 9月9日 ② 10月7日
10時～12時

◆参加費 無料（材料費別途）

◆定員 8人

◆申込締切 8月26日（火曜）

【共通事項】

◆対象 市内在住・在勤の人

◆申込方法 窓口か電話

◆その他

申込多数の場合は抽選
◆申・問・中央公民館
TEL 22・3482

外来魚駆除釣り大会

◆日程（1日のみの参加も可）

◆1日目 8月16日（土曜）
8時～17時
◆2日目 8月17日（日曜）
8時～15時

※2日目の15時から結果発表と表彰式を行います

※荒天時は次週の土日に延期

※釣った魚は検量時間（14時～15時）までに検量場所までお持ちください

◆対象 中学生以上

※小学生以下は保護者同伴

◆場所 御池 皇子港

◆費用 無料

◆部門

ブラックバス部門、ブルーギル（ハス含む）部門

◆審査・賞品

2日間の釣り上げた尾数が多い順に賞品を贈ります。

※同数の場合は重量を加味

※参加賞あり

◆問

・小林高原野尻漁業協同組合
TEL 23・4668

夏休み！わくわくキッズアクティビティ to 防災

- ◆日時 8月16日～8月24日
- ◆場所 ひなもりオートキャンプ場
- ◆内容 簡単防災グッズづくり、コーンホール、モルック、ポリ袋炊飯体験、マスのつかみ取りなど
- ◆参加費 300円
- ◆募集 600人
- 問＝ひなもりオートキャンプ場 TEL 23-8100

小林市民音楽祭・芸能祭の出演者を募集します

- ◆日時 開場 12時30分、開演 13時
- ▼音楽祭 10月26日（日曜）
- ▼芸能祭 11月2日（日曜）
- ◆演奏時間
- ▼音楽祭 団体7分・個人5分（曲間の時間含む）
※出演に必要な音源を用意
- ▼芸能祭 8分以内（個人・団体問わず1人1回のみ）
- 申・問＝文化会館 TEL 23-7400 FAX 23-7955

▼申込方法や詳細はこちら



「こども誰でも通園制度」がスタート！

令和7年8月から保護者の就労条件に係わらず、乳幼児を保育園などに預けることができる制度が始まりました。

- ◆対象者 0歳6カ月～満2歳の保育園などに通っていない乳幼児
- ◆実施施設
 - ・認定こども園こぼと保育園
 - ・大塚原認定こども園
 - ・認定こども園栗須保育園
- ◆利用者 1時間300円
※月10時間まで



▼詳細はこちら



●問＝こども課 TEL 23 - 1278

国際交流員 レポートのヨラム

Vol.4

「不思議な曇り」

●問＝地方創生課 Tel 23-1148

「Lieber(リーバ) haben(ハーベン) als(アルツ) brauchen(ブラウヘン)」というドイツ語のことわざがあります。「必要なくても、あるに越したことはない」という意味です。日本語だと、「備えあれば憂いなし」という表現が近いかもしれません。

6月の週末、鹿児島から帰る途中に、不思議な雲が目に入りました。形というよりも、ダークグレーの色が周囲の雲とは全く違っていました。私は「見て！なんかカッコいいね。写真撮って」と同乗者に言い、写真だけ撮って特に深く考えず帰宅しました。

そして次の日、大ニュースが報道されました。新燃岳が噴火したのです。「おお、あれだったんだ」と気づきました。あれは雲ではなく、灰と煙だったのです。「近くの火山が噴火した」なんて、ドイツにいる友達や家族に伝えるようなことは、今まで考えられませんでした。

日本は、火山の噴火だけではなく台風や大雨、地震などの自然災害が多い国ですが、ドイツは圧倒的に



に自然災害が少ない国で、国内には活火山もないからです。

あの不思議な雲が何だったのかを知った時、改めて「自分はいま日本に住んでいるんだ」と実感しました。ドイツにはもういないのです。火山や地震はニュースで見ただけの遠い出来事ではありません。目の前にある現実です。

いつ自然災害が起こるか分からないからこそ、防災の準備はちゃんとしておかないといけませんよね。使わずに済むのが一番ですが、それでも備えて置くべきです。

「Lieber(リーバ) haben(ハーベン) als(アルツ) brauchen(ブラウヘン)」ですね。

PickUpTopics

健幸情報がここに集まっています

ホームページ

市HPに健幸の窓口を開設

市のホームページ内に「健幸の窓口」コーナーを作成しています。これは、市民一人ひとりが健康で幸せな日々を送ることができるように役立つページをまとめたもので、多くの人の生きがいに影響を与える、栄養や食生活に関する情報や健（検）診情報、運動などに関する情報などを見ることができます。



大切な人に健康情報を伝えよう

健幸アンバサダー養成講座

専門の講師から健康づくりの正しい知識や実技を学ぶことができます。家族や友人など身近な大切な人のために役立つ情報を身につけてみませんか。

■日時 11月19日（水曜）9時～12時

■場所 中央公民館

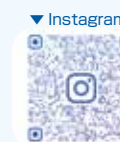
※詳しくは企画政策課（Tel 23-0456）まで問い合わせください



KOBASPONEWS

Vol.4

国スポ開催まで **786** 日 障スポ開催まで **813** 日（8月1日時点）



国スポ・障スポ情報
発信中！

●問＝国スポ・障スポ推進室
Tel 27-3325

日本のひなた宮崎国スポ・障スポ×須木中学校

大会を通じ地域活性化などを目指す 取り組みを進めています！

令和9年の「日本のひなた宮崎国スポ・障スポ」では、須木地区の小野湖を会場にカヌー（スプリント）とローイングの2競技が開催されます。大会期間中は選手や監督など、全国から多くの人が須木地区を訪れることが想定されており、地域の活性化につながるものと期待されます。

現在、小林市実行委員会では須木中学校と連携し、国スポ・障スポについての出前授業や競技体験などを行っています。今後も、国スポ・障スポという絶好の機会を生かすために連携を進め、大会に向けた機運醸成や大会を通じた地域活性化を目指していきます。



大会について知り、自分たちにできることを考える！国スポ・障スポを学ぶ出前授業を実施

6月18日と6月30日、大会について知ってもらい、大会を通じた地域の活性化などについて考えてもらうための出前授業を行いました。

6月30日は、4つのグループに分かれ、大会の成功や大会を通じた須木地区の活性化のために自分たちができること、市に提案できることなどを考えるグループワークを行いました。生徒からは「ボランティアに参加する」、「須木オリジナル弁当を作る」、「須木オリジナルのキャラクターやグッズを考える」、「大会後も利用できる遊び場や体験施設を造る」など、たくさんのアイデアが出されました。



写真② 6月18日の様子。クイズを交えながら昭和54年の「日本のふるさと宮崎国体」の様子や宮崎国スポ・障スポの概要などについてお話ししました。写真③ 6月30日の様子。グループワークで出た意見をホワイトボードに貼り出し、他のグループに向けて発表しました。

校外学習でローイング競技体験・競技会場予定地を見学



7月2日、ローイング体験会と小野湖会場予定地の見学会を行いました。体験会では、宮崎県ローイング協会所属の成年選手の丁寧な指導を受けて、徐々に上達。最後は100mの距離を競争するなど、生徒たちは初めてのローイング体験を楽しんでいました。また、見学会では和船に乗船してコース予定地などを巡回。事務局職員による会場の整備状況や小野湖に関する説明などを聞きながら競技会場の見学を行いました。



写真1・2・3 実際の競技にも使用される4人乗りの艇に乗り、成年選手にオールの使い方などの指導を受けました。写真4 和船で会場予定地を見学。まご湊の見学も行うなど、小野湖の大自然を体感しました。

元気がよか！

～「もちより BAR（場）」発足！～

誰かと一緒に食べるって嬉しい！

市内において地域等で共食している人（18歳以上）の割合 **31.8%**

※健康こばやし21（第三次）の令和6年時データ

今後も各地域の核となる施設や場所を中心としたイベントの開催も含め、出かける機会や交流機会を増やし、市内の共食率の割合増加を目指します。

もちより BAR（場）の特徴

- ① 代表者を決めない
- ② 食べ物・飲み物は持ち寄り
- ③ 会費無料

▼もちより BAR（場）の様子



問＝小林市地域包括支援センター Tel 25-0707
小林市西部地域包括支援センター Tel 27-2552
のじり地域包括支援センター Tel 44-2271
小林市社会福祉協議会 Tel 23-3466

食事につながる輪

最近、世帯構造の変化により、一人で食事をする「孤食」が増えてきています。孤食は、コミュニケーション不足や栄養バランスの偏りなどにつながりやすくなります。反対に、誰かと一緒に食事をする「共食」には、「会話をしながら食べることで、自然に笑顔が生まれる」「食事の約束があると、生活リズムが整いやすくなり、心が元気になる」などのメリットがあります。また、食欲が増進され、高齢者が陥りやすい栄養状

態の悪化を防ぐことにもつながります。一人暮らしで誰かと食事を機会がない人は、友人や近所の人たちと一緒に食事を時間を作ってみてはいかがでしょうか。こうした「共食」の良さを体感できる場所の一つに「もちより BAR（場）」があります。気の合う仲間と、ゆっくりと過ごすことができる場所です。新しいつながりのきっかけとして、興味のある人は地域包括支援センター・市社会福祉協議会へご連絡ください。

元気の知恵袋

●問＝こども課 Tel 23-4319

食事・運動・睡眠の必要性子どもの生活習慣病を予防しよう

子どもの生活習慣病率は、肥満児の5～15%とされています

生活習慣病と聞くと「大人の病気」のイメージがありますが、近年子どもの生活習慣病が増加傾向にあります。

生活習慣病は、高血圧や糖尿病、脂質異常症などがあり、大きな原因には、食生活や運動不足、生活リズムの乱れがあります。子どもの時の生活習慣や健康状態は、大人になって

からの健康状態にも大きく影響します。

正しい生活習慣を親が率先して身につけて、子どもの健康をサポートすることが大切です。ずっと、健康に過ごすために、健診などで生活習慣病を早期発見し、日頃の生活から生活習慣病を予防するなど、子どもの頃から正しい生活習慣を身につけていきましょう。

食

栄養バランスの摂れた食事を「朝・昼・夕の1日3食」。よく噛んで食べることが大切です。特に、朝食は体や脳に欠かせないエネルギー源で、朝食を抜くと空腹感から昼食や夕食を食べ過ぎるため、太りやすくなります。食事は家族そろって食べることで、心の健康にもつながります。

運

子どもの頃の運動は、運動神経を刺激して体の成長を促し、心肺機能や筋肉の発達により体力を向上させます。「遊び」や「お手伝い」の中で、体を動かしましょう。テレビゲームやスマホの長時間利用は運動不足につながります。時間を決めて使用しましょう。

睡

体の発達に重要な「成長ホルモン」は睡眠中に多く分泌されます。毎日同じ時間にふとんに入り、同じ時間に起きるようにしましょう。家族みんなで生活リズムを整えることが重要です。テレビやスマホなどは眠りを妨げるため、寝る直前の使用はやめましょう。

福祉情報をお届けします 社協タイムズ

社会福祉協議会で行っている「子育て支援」を紹介します！

1 みんなの子育て広場（子ども食堂）

子どもから大人まで誰でも利用できる食堂です。子どものみの利用も可能です。地域の皆さんと一緒に楽しく食事をしてみませんか。定期的に食育イベントも実施しています。（子ども：無料、高校生以上：200円程度の寄付）



3 ホームスタート

未就学児がいるご家庭に、週1回2時間程度、無料で子育て経験者が訪問します。子育ての不安を抱えていたり、孤立しがちな親子に寄り添って話を聞き、一緒に育児・家事などを行います。子育てのお悩みや困りごとなどお気軽にご相談ください。



2 フードパントリー

高校生以下の子どもがいて、支援を必要としている家庭に、毎月1回食料や生活用品を配布し、困りごとの聞き取りを行っています。※児童扶養手当や就学援助受給、非課税世帯のご家庭が優先です



4 フードドライブ

食品ロス削減と、食を必要とする人々への支援を目的に、お米や野菜など「地域の方々より寄付」頂いた食品を、支援を必要とされる家庭に渡したり、子ども食堂で活用しています。寄付できる人がいらっしゃいましたらご協力をお願いします。



ベジ活！

旬の野菜を冷凍してベジ活

暑い時、頼りたくなる冷麺は、つゆに凍ったままのトマトやオクラなどを追加するとさっぱりと野菜もたっぷり食べられます。ぜひ、試してみてください！

問＝健康推進課 Tel 23-0323

野菜をおいしいまま冷凍する方法を紹介

小松菜、ピーマン、トマトなど

- ① 洗って水分をよくふき取る
- ② 使いやすい大きさに切り冷凍保存する



ほうれん草、アスパラガス、オクラなど

- ① 洗って、熱湯で食べやすい硬さにゆでる
- ② 使いやすい大きさに切ってしっかりと冷ましたら冷凍保存する

えのき、しいたけ、ブナシメジなど

- ① 石づきを取って食べやすい大きさにして冷凍保存する

トマト



ゴーヤ



ピーマン、人参

冷凍する時のポイント

- ① 冷凍用保存袋に入れて平べったく凍らせると新鮮さを保ったまま冷凍できます。
- ② 保存してから1カ月をめどに使い切ってください。

小林市立図書館
問=TEL 22-7913

図書館からのお知らせ

★新刊本の入荷
は毎週土曜

～ 一般書 ～



『今日のそうめん』
著者：日坂 春奈
発行：誠文堂新光社

～ 一般書 ～



『パパパイアから人生』
著者：夏井 いつき
発行：小学館

休館と開館時間

【本館】毎週月曜は休館

◆開館時間 9時～19時 ※日曜と祝日は17時まで

【須木分館】毎週月曜と祝日は休館

◆開館時間 9時～17時

【野尻分館】毎週月曜と祝日は休館

◆開館時間 10時～18時30分 ※日曜は17時まで
毎月1日は館内整理日のため全館（本館・須木・野尻）休館

まだまだ！夏休み応援！



「夏休みのおたすけ本」コーナー

読書感想文・画コンクール課題図書のほか、
感想文の書き方や自由研究の本など、夏休
み中の学習に役立つ本を集めています。



おすすめ本

『読書感想文が終わらない！』
著者：額賀 滯
発行：ポプラ社

vol.29

健幸のまちづくり拠点施設整備

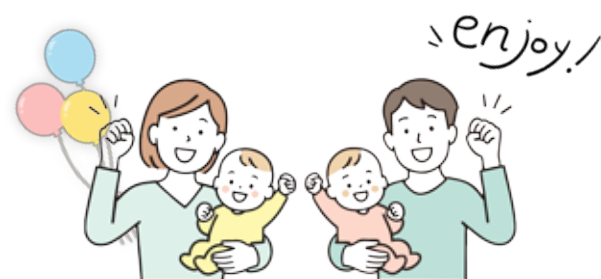
つうしん

安心して子育てができる施設を建設中です！

新体育館には、子育て支援機能として「こども家庭セン
ター」「子育て支援センター」「屋内遊び場」などを整備し
ます。

また、これまで保健センターで実施してきた、母子健康
手帳の交付、沐浴体験教室、乳幼児健康診査、こどもの発
育・発達相談、歯びび〜教室、もぐもぐクッキングなどの
事業も来年からは新体育館で実施します。授乳室やミルク
用の浄水・温水設備を備えた「赤ちゃんルーム」も併設し
ていますので、安心して参加できます。

「子育て支援センター」と「屋内遊び場」には、就学前
の子どもたちが楽しく遊べる空間を整備する予定です。
ぜひ、遊びに来てください。



●問 = こども課 TEL 23-4319

覚えてみよう！使ってみよう！

手話で話そう！

問 = 福祉課 TEL 23-0111

日常会話で使える手話を毎月紹介します。手話を使っ
てろう者の方とコミュニケーションをとってみませんか？

蝉

モデル：野尻中3年 前田美羽さん

1・2 両手で耳を塞ぎ震わせる

1



2



夏、暑い

モデル：野尻中3年 川野 隆臥さん

1・2 右手拳で首筋を仰ぐように動かす

1



2



今年も「すきむらんど河川プール」
がオープンします。うだるよう
な暑さの夏ですが、冷たい川で
涼しく遊びませんか。
遊んだ後は、河川敷のすきむ
らんどフードトラックで軽食や
かき氷など、夏にぴったりのメ
ニューを楽しめます。
また、今年はすきむらんどで
新たに「ウォーターバレーン体
験」が登場。バレーンに入って
水の上を転がるスリル満点のア
トラクションで子どもから大人
まで楽しめます。

さらに、期間中はかじかの湯
の小学生入浴が無料になりま
す。たっぷり遊んだあとは、お
風呂で汗を流してサウナでリフ
レッシュしましょう。
自然豊かな須木で、素敵な夏
の思い出をつくりませんか。

■河川プール開催期間

7月25日～8月17日

10時～16時

※期間中は河川敷でフードト
ラックも営業しています
(水曜、金曜はテント販売)

【かじかの湯】
10時～21時
※第2・4木曜定休



▼すきむらんど
ホームページ



▼すきむらんど
Instagram



夏の暑さを吹き飛ばせ！
須木で夏休みを楽しもう！



市内のイベント情報

お出かけ日和



●問 = 商工観光課 TEL 23-1174

のじりこびあ湧水プール



▼詳しくはこちら



自然の湧水を利用しているため、
水が冷たくて暑い夏にぴったり！
大小2基のウォータースライダー
が人気で、深さ40㌢の幼児用プ
ールも完備。浮き輪のレンタル（数
量限定）やアイスの販売もあり、
家族や友達と思う存分プールを楽
しめます。

■期間 9月15日⑧まで

※9月は土日祝のみ営業

■時間 10時～17時

第46回すき納涼花火大会

山々にこだま
する大迫力の
花火が魅力の
すき納涼花火
大会が今年も
開催。ステー
ジイベントや
約30店舗の
グルメ出店も楽しめます！



■日時 8月9日④

開場17時/花火打上20時

※雨天順延8月10日⑧

■会場 須木中学校運動場

■駐車場 須木小学校、須木運動
広場、かじかの湯、須木総合ふる
さとセンター（身障者用）

※無料シャトルバスを運行します

第41回のじり湖祭



▼シャトルバスの
運用や詳細はこ
ちら



「野尻のまちをもっと元気にした
い」と、昭和60年から続く伝統
ある祭り。ステージイベント、グ
ルメ出店、打ち上げ花火など催し
ものが盛りだくさんのイベントで
す！

■日時 8月30日④16時30分～

■会場 のじりこびあ

※無料シャトルバスを運行します

※のじりこびあ駐車場は、利用を
制限する場合があります

●納付・納税・年金 ほけん課 Tel 23-0116 税務課 Tel 23-0115 市民課 Tel 23-1112

種 類	月 日	場 所	時 間	備 考
休日納付・納税相談窓口	8月17日(日)	ほけん課・税務課窓口	8:30～17:15	※毎月第3日曜日
年金移動相談 ※要予約	8月28日(木)	市役所本館1階 相談室	10:00～15:00	予約:都城年金事務所

※年金移動相談は、事前に都城年金事務所 (Tel 0986-23-2571) に電話予約をお願いします

二原遺跡公園公開日

8月17日(日曜)
時間 9:30～11:30

農地移動申請

場所 農業委員会事務局
時間 9時～17時
受付締切日 8月8日(金曜)

税・保険料の納付期限

※納期限は9月1日(月曜)です

市県民税 2期
介護保険料 2期
国民健康保険税 2期
後期高齢者医療保険料 2期

これは何ごみ? 答え

容器・中敷は  マークがあれば『**プラスチック製容器包装**』、表示がないものは『**燃やさないごみ**』です。

※透湿シートをカッターなどで破り、除湿剤と溜まった水を取り除いてください

●問=生活環境課 Tel 23-8122

市公式 SNS

公式 LINE・Facebook・X (旧 Twitter)・Youtube でも、さまざまな情報を発信中!



●人権・行政・なやみごと相談 市民課 Tel 23-1141

月 日 曜	種 類	会 場	時 間
8	12 火	人権・行政・なやみごと	市役所東館1階会議室4
	19 火	人権・なやみごと	市役所東館1階会議室4
	26 火	人権・なやみごと	市役所東館1階会議室4
9	2 火	人権・行政・なやみごと	須木総合ふるさとセンター
	4 木	人権・なやみごと	野尻町保健福祉センター
	9 火	人権・行政・なやみごと	市役所東館1階会議室4

西諸県地域消費生活相談窓口 (消費者トラブル相談)

場 市民課内 日 平日9時～12時、13時～16時
問 ☎23-1179 もしくは 消費者ホットライン【☎188 (局番なし)】

ひとりで悩まずお話しください

◆こころの電話相談 NPO 法人こばやしハートム 月 20時～22時 ☎27-1850

◆お悩み傾聴ダイヤル	下記日時以外		☎0570-783-755
◆こころの電話相談	月～金	9時～19時	☎0985-32-5566
◆NPO 法人国際ビフレンダーズ 宮崎自殺防止センター	日 月 水 金	20時～23時	☎0985-77-9090
◆NPO 法人 宮崎いのちの電話	月 水 金	21時～4時	☎0570-783-556
	日 火 木 土	18時～4時	

その他の相談会や集い (参加希望者は事前に連絡ください)

小林保健所の相談会 (場 小林保健所 問 23-3118)	小林こすもす家族会
▼アルコール家族教室 (アルコールで悩む本人・家族)	精神疾患“学び合い”“助け合い” “笑い合う” 家族会です
日 毎月第2火曜 時 13時30分～15時30分	日 毎月第2水曜 時 13時30分～15時30分
▼ひきこもり・こころの健康相談	場 市民活動支援センター
日 毎月第4火曜 時 13時30分～15時30分	問 Tel 080-6423-5858
▼わかちあいの会 (自死遺族のつどい)	
日 毎月第4木曜 時 13時～15時	

リサイクル日程

生活環境課 Tel 23-8122
小林市清掃工場 Tel 24-0959
須木住民生活課 Tel 48-3132
野尻住民生活課 Tel 44-1100

区	8月	9月
水流迫、東方1・2	1	2
真方1・2・3	4	1
南西2・3、通り町	5	3
南西1の西、南西4本町、新生町	5	4
南西1の東、種子田	6	5
北西1・3、緑町	12	8
北西2、坂元	8	9
西町1・2・3 南島田	7	11
仲町、永田町、後川内	21	10
細野2・3、南真方	22	12
細野1、南真方西	26	16
南真方東 上町・上町西	27	17
上町中、上町東 上町北	28	26
西堤、南堤	29	18
北堤	29	30
野尻地区 (第3日曜)	17	21
須木地区 (第4日曜)	24	28

今月の これは何ごみ?



「除湿剤」
(答えは左のページ)

●育児・親子健康日程

問: こども課 Tel 23-4319

種 類	月 日	時 間	会 場
妊婦健康相談 母子健康手帳発行	毎週月曜 (祝日除く)	受付 9:00 ～ 11:30	小 林 市 保 健 セ ン タ ー
沐浴体験 (要予約)	8月18日(月)	13:30 ～ 15:30	
キッズフロア	9月3日(水)	受付 9:30 ～ 11:00	
もぐもぐクッキング (要予約)	8月27日(水)	受付 13:45 ～ 14:00 開催 14:00 ～ 15:30	
赤ちゃん健康診査	8月28日(木)	※個別に案内しています	
1歳6か月児健康診査	9月4日(木)		
3歳児健康診査	8月21日(木)		
歯っぴ～教室 (要予約)	8月19日(火)	受付 13:15 ～ 13:30	

●にここ運動教室 (13:30～15:30)

問: 社会福祉協議会野尻支所 Tel 44-1206

場 所	8月	9月
野尻町保健福祉センター	19日(火)、26日(火)	2日(火)、9日(火)

●健康相談

問: 健康推進課 Tel 23-0323

月 日 曜	種 類	会 場	時 間
平日(祝日を除く)			
(体組成計・血管年齢測定)		健康相談	小林市保健センター 8:30～17:15 (要予約)
8 14 木	まちの保健室	コープみやざき 小林店	13:30～15:30
8 19 火	まちかど健康相談	コープみやざき 小林店	13:30～15:30
8 28 木	まちの保健室	コープみやざき 小林店	13:30～15:30
9 4 木	まちかど健康相談	ゆ～ばるのじり	13:30～15:30

日曜祝日在宅当番医 (原則として9時から17時)

月	日	曜	在 宅 医	電話番号
8	10	日	宮崎医院	22-2841
	11	月	よしむら循環器内科クリニック	27-3339
			みまつこどもクリニック	22-1234
	17	日	前田内科医院	22-5802
			小林中央眼科	23-5300
	24	日	すわクリニック	22-6489
			桑原記念病院	22-4138
9	7	日	内村病院	23-2575
			和田クリニック	23-5653
			園田病院	22-2221
9	7	日	高崎皮膚科医院	22-8521

※変更になる場合もありますので、各医療機関にご確認ください

画：友安よーいち
第130話「夏休み②」



広報紙へのご意見・ご感想をお気軽にお寄せください



読んだ感想や、こんな情報が知りたい、この人取材してほしいなどのご意見を、二次元コードからお寄せください。

心の花びら

にぎりめし昔風情の田植えあり
（小林合歓の会 尾辻和子）
ふるさとへ帰れぬ兄へ御中元（小林合歓の会 倉田玲子）
紫陽花やほどよく孤独生きてみる
（小林合歓の会 入佐典子）
信号待つビルの谷間も夏の空
（小林合歓の会 後野英美子）
満点星の葉の涼やかに活く花屋
（からくに俳句会 中園直子）
どの子にも青空はほほ笑むシャボン玉（東脇哲郎）
噴煙の風はさつまへ日の盛（椎の実俳句会 市来遊山）
路傍には朝顔生きる涼しげに（長友正臣）
猛暑猛暑と言う列島を
多雨が被害をもたらす（武ナミ子）

SUKU SUKU

やまだ みちか ちゃん
山田 三千華 ちゃん
令和3年8月8日生



2歳になりました。妹も生まれてお姉ちゃんになりました。優しい女の子に育って欲しいです。
保護者：山田颯馬・山田芽衣

すくすく募集中！

【申・問】
・企画政策課 TEL 23 - 0456



申し込みはコチラ！

みやばら ゆう ちゃん
宮原 優 ちゃん
令和3年4月13日生



できることが一気に増えてお姉さんになったね！あなたらしく羽ばたけ～♪
保護者：宮原義弘・歩

<編集後記>

今年で戦後80年。取材で多くの人たちに平和への願いを聞きました。これまで何とも思わなかった日常の価値を感じ、幸せだったのだと再確認。これからも幸せでありたいと願います。（榎田）

新燃岳の特集を作成している中で、平成23年の噴火後は自分もヘルメットを被って登下校していたのを思い出しました。今後の備えとしてもヘルメットを家に置かなくては。（井手平）

ハッシンコバヤシ info

小林市×宮崎観光ホテル

食の魅力を通じてファンを獲得 こばやしフェア 2025 開催

8月1日～9月30日までの2カ月間、株式会社宮崎観光ホテルと連携し、「小林市×宮崎観光ホテル こばやしフェア 2025」を開催します。期間中は、ホテル内各レストランでの小林市産食材を使った特別メニューの提供やディナーイベント、売店での特産品販売などを実施。

また、8月2日（土曜）、9月4日（木曜）にはホテル内レストランにて、小林市産宮崎牛やキャビアのふるまいを実施。ホテル利用者に向けて小林市の特産品をPRします。



宮崎市の花火大会が開催される8月2日（土曜）には、ホテル内イベントテラスにて「真夏の激アツこばやしマルシェ」を開催。市内約14店舗・団体がブースを出店し、肉やスイーツなど、小林市の食の魅力を官民連携して発信します



小林の「よかとこ」をハッシンしよう！
投稿写真から数点を広報紙で紹介♪

Instagram & 広報こばやし
#ハッシンコバヤシ



▲詳細はコチラ

「ハッシンしたい小林の魅力」を写した写真に「#ハッシンコバヤシ」のハッシュタグを付けて、Instagramに投稿しませんか。市内で撮影したものであれば、景色、日常風景なんでもOK。

@rily_tomo.riku さん



#めろめろメロン

@1110isabella さん



#あなたはどっち派キャンペーン

@ipa_log さん



#東方 #夕日 #新燃岳

人のうごき（小林市の人口）

人口	40,405人	(-6、-852)
男	18,808人	(-5、-424)
女	21,597人	(-1、-428)
世帯	18,967世帯	(+25、-158)

令和7年7月1日現在現住人口（前月比、前年同月比）

現住人口：国勢調査人口（実際に居住している人口）をもとに、その後の転入・転出、出生・死亡などを増減して算出する人口。

火災・救急発生状況

種別	6月	累計	昨年
建物	2	11	+5
林野	0	0	±0
車両	0	1	+1
その他	0	7	-4
救急	183	1161	+101

交通事故発生状況

種別	6月	累計	昨年
人身	5	49	-4
物損	65	421	-20
死者	0	0	-1
負傷者	7	60	-6
全国死者	1161		(昨年同月比 -21)



日本神話の郷 **霧島岑神社**

小林市細野 (古宇) 4937 社務所 TEL 0984-23-0855
(細野中より南へ1.2km直進) 宮司携帯 090-3735-9954

和田 クリニック
人工透析センター

超純水透析液を使用した質の高い透析治療
最新機種 (全自動透析装置) を用いた安心・安全な透析
送迎応談・随時見学可

TEL 23-5653 / Fax 22-5142
〒886-0003 小林市堤 3727 番地 1
<http://wada-clinic.or.jp/> 和田クリニック

トラクター・重機
トラック・農機具

見積り無料
どこでも
かけつけます!

古くても、壊れてても、不動車でも
どこよりも **高く買い取る** ことを目指しています!!

広報誌を見て、ご連絡下さった方へ粗品、
又は買取額 10%UP 致します。

TEL: 0986-77-9092
農機具高価買取専門店 古物商許可 第951040015111号
アヴァンティ 携帯: 080-3375-9750
FAX: 0986-77-9092
<https://kaitorimiyazaki.jimdo.com>

株式会社 こさの印刷

小林市梅の天神下 (山麓線)
TEL. (0984) 27-0050
FAX. (0984) 27-0051
E-mail: kzn.o@abelia.ocn.ne.jp

(有) 宮内葬儀社
MYAUCHI
0120-24-2349

小林市細野 437 番地 4 (市役所前)
TEL 0984-22-2349

西町斎場・上町斎場・ラウム会館

九州555インテリアグループ ●営業時間: 8時~17時30分

(有) やすかた畳ふすま店

小林店 〒886-0007 小林市真方 384-10
TEL 0984-22-4566
FAX 0984-27-4566

都城三股店 〒889-1914 三股町夢池字前ノ村 4178
TEL 0986-36-3820
FAX 0986-36-8621

通話料無料 (フリーダイヤル)
0120-18-4566
お電話下されば見積りに伺います (無料)

「大切な方とのお別れをお手伝いいたします」
「大小ご希望に応じたご葬儀をご提案いたします」

※ただいまプリエール会員 (割引特典あり) 募集中です。
詳しい内容はお近くの斎場または各支店でお尋ねください。

JA みやざき プリエール小林

フリーダイヤル	0120-89-0983
プリエール小林 小林斎場	小林市水流迫 644-4 ☎ 23-1084
プリエール小林 野尻斎場	小林市野尻町東麓 1379-1 ☎ 44-0040
プリエール小林 高原斎場	高原町大字西麓 3243-1 ☎ 42-4400

広報こばやしでは、収入確保対策として有料広告を掲載しています。

広告内容は市が推奨するものではありません。掲載している広告の内容などへの問い合わせは、直接広告主へお願いします。